

平成 19 年度活動報告
(2007 年 4 月～2008 年 3 月)

1. 運営

A. 組織

館長 保野洋一（教育長兼務）
学芸課長 西谷榮治
学芸係長 佐藤雅彦
臨時事務 保野亜由美

B. 利尻町博物館協議会委員

(任期:平成 18 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

会 長 張間敏一
副会長 佐藤 悟
委 員 田村 一
委 員 高松親彦
委 員 津田和子

C. 文化財調査委員

(任期:平成 18 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

委 員 張間敏一
委 員 津田和子
委 員 高松親彦
委 員 田村 一
委 員 佐藤 悟

D. 平成 19 年度のあゆみ

4/29 定期観光バス対応による開館開始
5/1 博物館常設展示公開開始
5/7 博物館ロビーの自動販売機撤去
7/3 利尻町博物館協議会
7/21 湿原調査（高田雅之氏ほか：北海道環境科学研究センター）
7/26 微生物調査（中桐 昭氏：生物遺伝資源センターほか）
9/2 地磁気調査・利尻島調査研究事業（植木岳雪氏：産総研）～6
9/10 利尻町調査（仲野美希氏：明治大学文学部史学地理学科）～17
9/11 『旧仙法志村行政文書件名目録』資料調査（郡司 淳氏ほか：北海学園大学）～14
9/15 アイスウェッジカスト調査（近藤玲介氏：明治大学）
9/19 『旧仙法志村行政文書件名目録』資料調査（佐治暁人氏：立教大学、千地健太：一橋大学）～24
9/20 魚付け山林、テングサ調査（会田理人氏：北海道開拓記念館）～21
10/2 学芸員実習（町田直樹氏・桜木裕美氏：帯広畜産大学）～11
10/2 蘚苔類調査（大石善隆氏：京都大学）

表 1. 平成 19 年度入館者数

月	有料入館者					無料入館者			合計	開館日数
	個人		団体		小計	小中	一般	小計		
	小中	一般	小中	一般						
4	0	47	0	0	47	0	47	23	70	10
5	16	470	0	34	520	16	470	99	619	31
6	1	1,014	0	462	1,477	1	1,014	90	1,567	30
7	43	1,628	0	460	2,131	43	1,628	238	2,369	31
8	169	2,090	0	189	2,448	169	2,090	253	2,701	31
9	15	727	0	103	845	15	727	106	951	28
10	1	135	0	39	175	1	135	53	228	26
11	0	17	0	0	17	0	17	44	61	26
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1
2	0	0	0	0	0	0	0	6	6	2
3	0	0	0	0	0	0	0	11	11	4
計	245	6,128	0	1,287	7,660	292	633	925	8,585	220

表2. 年次別入館者数の推移

年	有料入館者				無料入館者		合計	開館日数	
	個人		団体		視察・見学等				
	小中	一般	小中	一般	小中	一般			
1980	昭55	2,299	13,846	91	922	248	1,239	18,645	182
1981	昭56	1,799	13,153	82	2,753	106	1,034	18,927	191
1982	昭57	1,749	12,917	89	2,454	192	1,167	18,568	191
1983	昭58	1,686	12,573	92	959	124	983	16,417	188
1984	昭59	1,488	10,525	60	2,707	179	1,056	16,015	192
1985	昭60	1,534	9,709	53	3,484	199	805	15,784	193
1986	昭61	1,349	11,161	0	2,455	242	1,838	17,045	194
1987	昭62	1,319	11,278	35	2,402	512	1,621	17,167	194
1988	昭63	1,246	10,793	0	2,655	479	1,868	17,041	192
1989	平元	1,180	11,805	0	5,498	440	1,723	20,646	190
1990	平2	1,248	13,634	26	3,950	383	1,673	20,914	191
1991	平3	1,589	16,474	38	5,324	398	1,625	25,448	192
1992	平4	1,711	18,843	0	4,496	314	1,334	26,698	190
1993	平5	1,295	14,856	64	4,235	231	928	21,609	188
1994	平6	1,244	14,482	80	4,028	221	1,510	21,565	188
1995	平7	1,170	13,278	12	3,699	97	865	19,121	191
1996	平8	1,007	10,777	7	3,670	104	761	16,326	192
1997	平9	763	9,776	4	1,451	224	696	12,914	197
1998	平10	648	8,622	8	1,293	317	751	11,639	203
1999	平11	500	9,430	5	1,059	270	876	12,140	205
2000	平12	378	9,388	63	2,207	240	594	12,870	223
2001	平13	442	9,593	0	2,172	237	608	13,052	226
2002	平14	418	9,637	65	1,859	255	675	12,909	224
2003	平15	315	8,476	4	2,105	309	583	11,792	225
2004	平16	300	7,869	0	1,791	337	774	11,071	223
2005	平17	246	7,274	0	788	487	765	9,560	224
2006	平18	216	6,782	5	1,676	227	927	9,833	219
2007	平19	245	6,128	0	1,287	292	633	8,585	220
合計		29,384	313,079	883	73,379	7,664	29,912	454,301	5,628

表3. 平成19年度博物館予算(当初予算 単位:円)

科目	予算	科目	予算	科目	予算
報酬	46,000	旅費	189,340	備品購入費	50,000
給料	8,606,000	需用費	2,612,000	負担金補助及び交付金	42,000
職員手当等	4,667,000	役務費	436,000	公課費	26,000
共済費	2,406,000	委託料	30,000		
賃金	1,425,660	使用料及び賃借料	278,000		
報償費	30,000	工事請負費	0	合計	20,844,000

表 4. 展示活動

種 別	テーマ	期 間など
館内展示	「利尻の春」	常設展示改訂. 昭和 31 年に長野重一氏が撮影した 192 点の写真.
	島と島人	島の四季と島人たちの生業・生活の様子. 47 点.
	トイレ展示	通年. 利尻の自然に関する 2 つのテーマを A1 ポスターにまとめて館内トイレに掲示. 個室には山のトイレ問題のミニポスターを展示.
施設外展示	利尻の島人たち	通年, 町営ホテル利尻
	杵形岬はどんと岬	4-11 月, 杵形岬観光案内板
	利尻の自然	通年, 杵形ミニビジターセンター
	北の海の道の駅	5-9 月, 杵形港フェリーターミナル
	歴史写真展	通年, 特別養護老人ホーム, 利尻町高齢者生活福祉在宅介護支援センター, 利尻島国保中央病院, 利尻町高齢者共同生活施設友愛
	「島の高校 50 年の記憶」	12/30-1/20, ふれあい保養センター, 利尻高等学校歴史写真展 (写真 48 枚).
	図書室ミニ展示	年 4 回. 実物標本をコンパクトに閲覧用の机の上に展示. 「イシイルカ」「シダ」「利尻のカニ」「北加伊道カルタ」.
	図書まつり関連展示「利尻の棘皮動物」	9/29, どんとロビー. パネル, 実物標本 (小松コレクション), 書籍展示.
第 36 回移動展示	利尻島の自然ニュース 2007	① 鴛泊フェリーターミナル 2/25-3/2, ② ホテル利尻 3/3-9, ③ どんとロビー 3/10-16, ④ 仙法志郵便局 3/17-23

～ 9

- 10/28 アイスウェッジカスト調査 (近藤玲介氏: 明治大学)
- 11/15 第 55 回全国博物館大会棚橋賞受賞
- 12/1 冬季閉館
- 1/22 利尻島史調査 (忍見武史・宮崎栄一郎氏: 風土工学デザイン研究所)
- 2/7 常設展示室水漏れ排水管補修工事, 天井板塗装作業
- 2/18 玄関シャッター部分補修
- 3/7 利尻町博物館協議会・文化財保護委員会
- 3/18 利尻研究第 27 号発送
- 3/25 テングサ調査 (会田理人氏: 北海道開拓記念館) ～ 26

者数の推移を示した.

平成 18 年度からは 1,248 人の大きな減少となり, 平成 14 年からの減少傾向に歯止めがかかっていない. 公表されている利尻島の観光客入り込み数も平成 15 年から減少傾向となり, その傾向は博物館入館者数にも大きく反映されているものと考えられた. 無料入館者については小中学生の入館者数が増加しており, 外部などからの博物館見学などの利用が多かったことが原因のひとつと思われた. 入館者減少に伴い, 当館では館外における展示や講座などの活動を行うなど, 本館の展示以外での活動を積極的に広める一方, 資料収集やその調査研究および保管機能を充実し, 博物館は展示を見るだけの場所でないこともアピールしつつある. これらがいずれ本館の展示などにも結びつき, 新たな利用者開拓に結びつけばと考えている.

D. 入館者数

表 1 に平成 19 年度入館者数, 表 2 に年次別入館

表5. 普及講座

月日	テーマ	場所	内容	講師	参加
5/6	春の探鳥会	沼浦	早朝探鳥会	学芸員	23
5/26	オオハンゴンソウ除去作業会	種富湿原	雨天であり希望者のみ参加	学芸員	4
6/16-17	フラワーソン	島内一円	植物開花調査会・「北海道フラワーソン2007」への参加	学芸員	24
7/22	コウモリ観察会	姫沼	コウモリ学習会と標識調査見学	学芸員	2
8/18	コウモリ観察会	利尻町森林公園	コウモリ学習会と標識調査見学	学芸員	6
9/1	土壌の観察と実験	仙法志・利尻町公民館	土壌観察と実験・利尻発掘探検隊と共催	田村憲司(筑波大学)	9
10/7	コケ盆教室	博物館	コケ盆作製によるコケと火山噴出物の学習	大石善隆(京都大学)	4
2/3	スノーシューで観察会	沼浦ボン山	スノーシューで爆裂火口や溶岩流、鳥や植物の観察など	学芸員	8
2/17	ワシ・ゴマセンサス	島内一円	ワシとアザラシの個体数調査会	学芸員	15
3/11	鳥類仮剥製講習	博物館	鳥類を剥製にする技術を習得	学芸員	6
3/19	探る◎明治29年の小倉鯨漁場日誌	交流促進施設どんと	明治29年の小倉鯨漁場日誌を読む	志摩進	4
雨天中止	昆虫採集と標本づくり	博物館	昆虫採集と標本作製会	学芸員	—
雨天中止	ナイトハイク	野塚〜鴛泊	夜の自然観察会, 9/15	学芸員	—
未実施	キッチン火山学	—	火山について身近な素材で学習。	近藤玲介氏(明治大学)	—
未実施	利尻歴史遺産めぐり	—	大平山三吉神社, 9/22	学芸課長	—

E. 平成19年度博物館予算(表3)

2. 教育普及活動

A. 展示活動(表4)

展示活動については平成18年度とほぼ同様の活動が行われ、館内の常設展示などの改訂が行われた。館外展示では主に2つの展示様式にわかれ、一過性の閲覧者を対象とした施設では掲示物の更新があまり行われない固定的な情報提供がなされ、島民などが何度も足を運ぶような施設では期間を限った展示や内容の随時更新が心がけられている。

これまで館外展示については資料の破損の危険性などから主に印刷物などが主体とならざるを得なかった。情報過多の昨今、二次資料などは様々な媒体を通じて手に入れることが可能になってきたため、実物資料の価値は博物館においてもっとも基礎的、なおかつ貴重な財産と言える。しかし、実物資

料が持つ価値やその保存・記録に対する認識はまだまだ広く普及しているとはいえない。そこで、展示スペースは少ないものの、図書室における実物標本などの展示が平成19年度から開始された。

B. 普及講座(表5)

平成18年度に比べて事業数が減少したことは、悪天候や講師の都合などで中止となった事業があったこと、自然史分野では調査会以外の事業の精査を行ったことが理由である。また、近年では同じような内容の事業が他機関によって行われ、他機関との共催事業が多くなってきたこともあり、このことも博物館単独開催の事業数が減少しているひとつの理由といえる。

C. 出版活動

<定期刊行物>

- ・博物館だより「リイシリ」
Vol. 26(4)～27(2+3) 通巻 No.240～249
(年 10 回発行；11-12, 2-3 月合併号)
- ・「利尻の語り (205)～(210)」広報りしり掲載
- ・「博物館発利尻情報 (全 6 回)」同上
- ・「利尻研究 Rishiri Studies 第 27 号」
五十嵐八枝子：利尻島の種富湿原における後期更新世の植生変遷史
石川路子・佐藤雅代・福重元嗣：財政支出と観光客が利尻島経済に与える効果について
佐藤雅彦・長谷川英男・前田喜四雄・村山良子：モモジロコウモリの耳介皮膚に寄生する特異な囊状線虫 (予報)
佐藤雅彦：移入種としての利尻島未記録のイチリンソウ属 2 種 (キンポウゲ科)
佐藤雅彦・佐々木伸宏：利尻山登山道にて拾われたヒメホオヒゲコウモリ
佐藤雅彦・村山良子・前田喜四雄・出羽 寛：美深町におけるコウモリ類の分布
山谷文人：利尻島鴛泊における袋潤の測量調査
佐藤雅彦・茂木幹義：日本産鳥類および翼手目から得られた吸血性双翅目の記録 (双翅目：シラミバエ科、クモバエ科、コウモリバエ科)
前田喜四雄・佐藤雅彦：利尻島における樹洞内温度と外気温の比較 - 冬の樹洞がコウモリのねぐらとなる可能性 -
小杉和樹：利尻島におけるシマゴマ *Luscinia sibilans* の標識記録
大石善隆・山田耕作：利尻島産のタイ類とツノゴケ類
田牧和広：利尻島沿岸部におけるアビ *Gavia stellata* の観察記録
平成 18 年度活動報告

<学芸員の執筆活動>

西谷学芸課長

- ・西谷榮治, 2007. 北の海の語り, 利尻島の水産だより, (102).
- 佐藤学芸係長
- ・佐藤雅彦・川上和人・茂木幹義, 2008. 小笠

原諸島からモミヤマシラミバエ *Ornithoica momiyamai* の初記録, 小笠原研究年報, (31): 91-94.

- ・佐藤雅彦・中谷正彦・茂木幹義, 2007. 佐々木尚子氏採集の道東地方のクモバエ 4 種, *Sylvicola*, (25): 59-62.
- ・Satô, M. & M. Mogi, 2008. First descriptions of the males of *Ornithomya candida* Maa and *Nycteribia pleuralis* Maa (Diptera: Hippoboscidae and Nycteribiidae). *Med. Entomol. Zool.*, 59(1): 19-23.

<映像資料>

博物館オリジナルの動画資料の記録・閲覧・保管を実施。以下のコンテンツは博物館, 交流促進施設と図書室にて DVD として視聴できる。

- ・「利尻自然紀行 4 湿原のオオハンゴンソウ」
- ・「オリジナル映像記録集」
 1. 利尻島湿原セミナー (利尻島自然情報センター主催)
 2. 観光と財政支出による利尻経済の振興の可能性 (利尻町観光協会、利尻富士町観光協会主催)
 3. 山岳性自然公園のオーバーユースとその対策 (利尻島調査研究事業講演会, 2001 年, 利尻町立博物館主催)

D. その他の活動

<学芸員の館外活動>

西谷学芸課長

- ・利尻高校総合学習講師 4/23, 5/14
- ・仙法志中学校総合的学習 5/8-10
- ・礼文町立香深中学校利尻島研修 5/9
- ・利尻島アグリツーリズム 6/7-10
- ・平成 19 年度国家公務員初任行政研修講演会 6/22
- ・2007「日印交流年」セライケラ仮面舞踊公演 7/11-14
- ・北方島文化研究会 7/14-15
- ・第 36 回北海道高等学校地理教育研究会利尻大会

- 講演会及び巡検 7/30-31
- ・へき地・複式教育体験実習講師 8/30
- ・味の素ルネッサンス社員研修会講師 7/23
- ・太田市青少年交流事業「フレンドシップ2007」案内 8/21
- ・平成19年度アイヌ文化普及啓発セミナー講師 8/28, 9/5
- ・利尻町女性研修会講師 10/21
- ・利尻タウンガイド養成講座講師
- ・ふるさとカレッジ講師 2/15

佐藤学芸係長

- ・利尻高校郷土学習講師 5/7
- ・利尻富士町教育研究会理科サークル観察会講師 5/24
- ・仙法志小学校ふるさと学習 5/25, 7/4, 2/15, 2/27
- ・本泊小学校ゴミと生物の講話 5/25
- ・歩こう会協力 6/2
- ・本泊小学校野鳥観察会講師 6/8, 13
- ・利尻小学校愛鳥活動 6/20
- ・常陸宮殿下案内 6/28
- ・利尻教育研究会地質巡検 7/17
- ・船泊中学校体験学習 7/18, 19
- ・札幌臨海研究所学生実習講話 8/20
- ・僻地複式教育実習生自然講座 8/28
- ・利尻タウンガイド養成講座講師 11/13, 20

3 資料管理活動

人文史部門では、写真資料整理と新聞記事目録(2005・2007年)の作業が行われた。

自然史部門では、通常の本標化作業や保守点検が行われるとともに、5年間続けられてきたシャチ(RTMM210)の全身骨格のクリーニング作業が全て終了となった。平成18年度利尻島調査研究事業で来島調査された小松美英子氏(富山大学)とその調査チームからは利尻島沿岸に生息する棘皮動物およびカニ類の本標本が寄贈された。

博物館出版物の電子化に着手し、著者から許可を得た「利尻研究」のバックナンバー21編のPDFファ

イル化を行った。

<資料貸し出し>

第63回特別展示「鯨」展示資料として亦稚貝塚出土遺物が北海道立開拓記念館に貸し出された(7/14～10/10)。

4. 調査研究活動

A. 利尻島調査研究事業

本事業は平成4(1992)年から始まり、利尻島に関する調査研究を奨励し、その成果を地元還元するための助成金制度であった。平成19年度からは島内外の有志が直接運営する事業となり、博物館としてはその活動への協力を行うとともに、従来通り採択者の研究成果を「利尻研究」に掲載することを行うこととした。平成19年度は「利尻火山の溶岩の絶対古地磁気強度測定」(植木岳雪氏:産業技術総合研究所)が出資者による採択会議によって選ばれ、来島調査が9月に実施された。普及活動はサンプルの分析が終わった次年度以降に行われる予定で、博物館活動のひとつとして実施するつもりである。

B. 自然史系調査研究の概要(担当:佐藤雅彦)

ここ数年、普及活動の企画・実施および館外での企画・講師依頼などが多く、資料を中心にすえた収集、管理、調査、公開活動という博物館本来の機能が不十分であるように感じられていた。そこで2007年度同様これまでの公開活動などを見直すことで、標本収集や資料の整理・再資料化を中心活動とし、それにともなった成果の発表や展示などを展開する一年を目指した。資料を中心とした活動を意識し、展示では一次資料の閲覧、資料自体については標本化や電子化などの保管機能に重点をおくことができ、調査研究の発表へとつなげることもできたが、まだまだ資料収集活動については弱いと感じられた一年でもあった。各分野の概要については以下のとおり。

植物:これまで利尻からは報告がなかったイチゲ属2種を記録し(利尻研究,(27):21-24),2007

年に新種となったリシリハタザオの分布調査を行った。この他、島内の植生記録を確実に将来に残すための予備調査を行い、杳形地区に点在するテムラスをその対象地区として選定した。2007 年は大石善隆氏（京都大学）によって本地域のコケフロラが調査され、これまで本島から記録がなかったホソバオキナゴケなどが発見された。チシマザクラの開花調査では同所的に自生するミヤマザクラに病気を確認し、その経過観察を今後は行うこととした。リシリヒナゲシの分布実態と遺伝的多様性に関して、北大調査チームのサポートを行った（8/8, 8/14）。これまでの調査で利尻山自生地の個体群と平野の植栽された個体群では遺伝的に異なることが判明し、今後、在来のリシリヒナゲシの保護対策をすることが早急に必要とされている。鬼脇個体群も環境変化などにより個体数は 20 年ほど前よりも少なくなっていることも確認された。また、湿原調査（高田雅之氏、北海道環境科学研究センター、7/21）に協力を行った。

昆虫、その他の無脊椎動物：オドリバエ科に属する *Thalassophorus spinipennis* は利尻固有種であるが、近年、その生息が確認されたことがなかった。しかし、2007 年の調査では調査時期や気象状況によりその生息を再確認するには至らず、2008 年度の課題となった。当館で収集、または日本各地の研究者などから寄贈されたシラミバエ科、クモバエ科、コウモリバエ科、トコジラミ科についての同定・検討を行い、国内産の 1/3 ~ 2/3 の種についての追加記録をまとめた（利尻研究, (27):41-48）。さらにそのうちの 2 種についてはこれまで♂が発見されておらず、記載を行った（Medical Entomology and Zoology, 59(1):19-23）。利尻からはシラミバエ科 9 種のほか、道内でも極めて記録が限定されているコウモリトコジラミ（トコジラミ科）と思われる個体を初めて採集することができたが、その分類学的な位置づけについては現在保留し、検討中である。さらに道内で採集されたコウモリの耳介に寄生する線虫については国内での記録が知られ

ていないものであったが、サンプル数が少なく、やはりその分類学的な位置づけは保留とされ、予報の掲載にとどまった（利尻研究, (27):17-20）。石井清氏（獨協医科大学）との共同調査では、利尻産土壌動物相の基礎調査が 3 回行われた。対象となったのは平野部であり、身近な場所にどのような土壌動物がいるのかわかることが目的であった。成果については利尻研究などで今後それぞれの専門家から発表されていく予定となっている。

鳥類：利尻島西部におけるウミネココロニーの生息個体数調査を宗谷支庁、日本野鳥の会、北大水産学部などと協力し実施した（5/22）。総個体数は約 93,000 羽が推定され、本調査開始から初めての減少傾向となったが、調査員の増加やコロニーの分割などによる調査精度の向上が影響している可能性も考えられ、調査方法自体の精度の統一などについても今後検討すべき課題のひとつと考えられた。ウミネコの調査のため来島している風間健太郎氏（北大・水産学部）との連携を行い、島内小学校における学習会などのプログラム作りに協力したほか、1 ~ 3 月には、環境省からオジロワシ・オオワシ合同調査グループに委託されているワシ類越冬調査に協力した。2007 年度における傷病鳥および死体の持ち込み件数は 20 件であり、展示用剥製や仮剥製標本などになるほか、野外に放鳥できるまでの保護・飼育を実施した。

哺乳類：「道北地域における翼手目調査」では、美深町において初めての詳細なコウモリ調査が実施され、5 種を確認した（利尻研究, (27): 27-32）。このほか枝幸町におけるモモジロコウモリおよびドーベントンコウモリへの標識調査も継続され、再捕獲個体や繁殖集団と思われる場所が見つかったほか、これまで当地で記録された移動距離で最も遠い約 30km の移動をした個体も確認された。利尻島内でもコウモリ類の標識調査が継続され、51 個体が捕獲され、そのうち 7 個体が再捕獲個体だった。海棲哺乳類では、利礼海峡のネズミイルカについて、田口美緒子氏（北

海道大学大学院水産科学院)の調査に協力を行った。当館のネズミイルカとされている頭骨標本の同定を実施していただいたが、島内で漂着個体を得ることはなく、利礼航路での目撃例のみ報告するにとどまった。ゴマフアザラシとトドに関しては例年通り来遊個体数のカウントを行うとともに、年末トドセンサス(トドワーキンググループ主催, 12/30)および全道一斉アザラシセンサス(北の海の動物センター主催, 3/2)に協力した。

地球科学：利尻島内の雪形の季節消長の継続観察を例年通り行ったほか、八雲町、長万部町、倶知安町、蘭越町、北竜町、中頓別町において伝承雪形を中心に確認作業を実施したが、道南地区は悪天などのため確認はできなかった。北竜町の「龍」については今後詳細な調査が必要と思われる。利尻山に標高別に設置された5つ地温計の回収に田村憲司氏(筑波大学)に協力した(9/2)。利尻島の湧水調査に関連した降水採取について浅井和由氏(地球科学研究所)に協力を行った。

環境：登山道の崩壊や植生後退がいつ頃から起きたのかなど、利尻山の環境変化についての資料収集や聞き取り調査を実施した。種富湿原および南浜湿原の外来種駆除作業(利尻富士町理科サークル(5/24)、博物館事業(5/26)、パークボランティアの会(6/3))についても単独事業のほか、協力を行った。

標本・資料調査など：標本の同定作業や作成、整理を例年通り行ったが、未処理のものが多く、事業計画を見直すことで、その収集や整理に重点をおくようにした。長年の作業であったシャチの全身骨格は整理できたものの、標本収集などに思うような時間を割けず、今後の課題となった。標本化技術については博物館だけでなく多くの方にその重要性を知ってもらうと共に技術の伝承をするべく、標本講座を実施した(3/11)。今後も様々な分野でこのような標本講習会を開催していきたいと考えている。

C. 人文史系調査研究の概要(担当：西谷榮治)

■訂正とお詫び■

利尻研究 27 号の以下の箇所に誤りがありましたので、関係者のみなさまに深くお詫びを申し上げますとともに、ここに訂正をさせていただきます。

76p 表 2

表組みの数字が一部誤って記載されていたので、今号の表 2 (88p) を参照してください。

65p 左段

2 行目：(誤) ツキギヌゴケ → (正) ツキヌキゴケ
 17 行目：(誤) タカネツキギヌゴケ → (正) タカネツキヌキゴケ
 32 行目：(誤) *Cephaloziellaa* → (正) *Cephaloziella*

71p 左段

下から 6 行目：(誤) *quadrat* → (正) *quadrata*

■お知らせ■

ともすると失われがちな地域の記録、「利尻研究」は 1982 年に創刊されて以来、利尻島やその周辺地域の歴史や自然についての記録を地元に残していこうと、地元はもとより多くの来島研究者による投稿によって支えられてきた雑誌です。今号までに 258 本の幅広い分野にわたる報告が掲載され、国内外の関係機関などに毎年冊子として配布がされてきました。

しかし、近年の町財政の悪化からこれまで同様に冊子としての配布が難しくなり、発行部数の大幅な削減と電子配布への移行を本号より進めることとなりました。一部の方々には受領書による冊子配布のご希望にも応えかねる場合がでてくるかもしれません。気軽に手に取っていただける紙媒体の冊子を多くの方々に配布できなくなることは大変心苦しく思いますが、最北の島から郷土の記録を発信し続けていく決意に変わりはございませんので、みなさまのご協力とご理解を今後ともいただけますようここにお願い申し上げます。

なお、著者の方からご承諾を得た近年のバックナン

バーおよび総目録については以下のサイトにて自由に閲覧や PDF ファイルのダウンロードができますので、ご活用いただければ幸いです。冊子配布から PDF ファイルによる配信へのご変更にご協力いただける方がございましたら、次ページの受領書などをご利用いただき、編集担当までどうかお知らせくださいますようお願い申し上げます。

利尻研究のページ

<http://web.mac.com/rishiri/iWeb/NHRrs/Top.html>

■利尻研究へのご投稿について■

2009 年版

- ・ 利尻島およびその周辺地域や離島に関する報告、当館所蔵標本を題材とした報告などを掲載しています。
- ・ 原稿は随時受け付け、基本的にその受付順に掲載をしていきます。予定ページ数を超過した時点で、掲載を次号へ延期させていただく場合もあります。
- ・ 本誌では編集者の判断によって外部の専門家の方に査読をお願いすることもあります。できればご投稿前に適切な査読者に原稿をみていただくことをお勧めするとともに、ご相談等も受け付けたいと思います。
- ・ 原稿は 12 月末日を締切とし、年 1 回、年度末に発行しています。
- ・ 原稿には英文でタイトル、著者名、所属を必ず明記してください。
- ・ ランニングタイトルを 3 ページ以降の奇数ページにつけておりますが、長いものはこちらで適当に短く直します。
- ・ 英文 abstract をできるだけつけてください。英文 summary をつけることもできますが、その場合も必ず英文 abstract をつけてください。なお短報 short communication の場合は、英文 abstract は必須ではありませんが、そのかわりに英文 Keywords を英文 abstract の次につけることはできます。
- ・ 掲載された第一著者の方には別刷り 50 部と年報をさしあげます。別刷りの追加も可能ですが、費用は著者の負担となります。
- ・ カラー写真掲載ご希望の方は担当者までご相談くだ

さい。

- 原稿はどのような形態のものでも受付けておりますが、本文などではできるかぎりテキスト形式のファイル (Macintosh 又は Windows) にして電子メール (担当佐藤まで rtm08@mac.com)にてお送り願います。
- テキスト形式のファイルで送っていただく場合、機種依存文字 (①, VII など) や行頭インデントや字間を揃えるための余分な空白スペースなどはなるべく使わないようお願いいたします。
- 図表の位置の要望がありましたら、お知らせください。
- 1ページ内に掲載できる図の最大面積は、14.5cm × 21.0cm です。原図をページいっぱいレイアウトしたい方は前記の数値を参考にしてレイアウトをお願いいたします。
- 印刷までの基本的な流れは、いただいた原稿に基づいて博物館でレイアウトを作成し、著者校正をこの時点までに終了させておきます。全ての原稿のレイアウトがそろった時点で印刷会社にデータ入稿を行い、出力された印刷原稿を担当者が確認後、最終的な印刷が実施されます。
- 表については、特殊な表組以外はこちらでレイアウトソフト用の表組に変換してから配置しています。厳密なレイアウトを求める表の場合は、いただいた表を画像または PDF ファイルとしてレイアウトソフトに張り付けますので、どちらか好きな方法をお申し付けください。
- 当館の発行部数は 400 部 (2009 年 3 月現在) と少ないため、複製を許可いたします。
- 図の入稿は近年ではほとんどが添付ファイルでいただくことが多くなってきています。精密な図の印刷が必要な場合は、できるだけ高解像度をもったオリジナルファイルをお送りください。なお、図は縮小して版下に貼り付けることとなりますが、印刷の仕上がり上 0.25mm 以下のラインは不鮮明になったり、場合によっては欠落することもあります。縮小倍率を考え、十分余裕をもったラインの太さを設定してください。また、従来通りの原図送付による入稿も受け付けますが、A4 以上の大判の原図の場合は

従来通り印刷会社によってスキャンしていただくこととなりますので、事前にお尋ねいただけますようお願い申し上げます。

スタイルの統一にご協力を！

みなさまのおかげで徐々に利尻研究の報告のスタイルが統一されてきたように思い、感謝いたしております。今後ともご協力をお願いするとともに、更なるご意見などもお待ちいたしておりますので、よろしく願います。

- 句読点は「、」「」を使います。「、」「。」は使いません。
- 文中における引用は、「…が示されている (保野, 1995a;宮森, 1845)」「立花・高橋 (1999) によれば、…」 「Sasaki & Nishijima (1993) では、…」 のように記し、3名以上の文中の引用は「岡田ほか (2001) は」「Hono *et al.* (2001) では」 のようにします。
- 文献番号は基本的につけず、著者のアルファベット順、年代順に並べます。以下の例をご参照願います。

小杉和樹, 1993. 利尻島に夏を運ぶ鳥たち. 遠藤公男編, 夏鳥たちの歌は, 今: 8-10. 三省堂. 東京.

宮本誠一郎・杉田美野里, 1997. 利尻 山の島花の島. 北海道新聞社. 札幌. 95pp.

佐藤雅彦・小杉和樹, 1994. 利尻島で記録されたコテングコウモリ. 利尻研究, (13): 1-2.

Sunose, T & M. Satô, 1994. Morphological and ecological studies on a maine shoredolichopodid fly, *Conchopus borealis* Takagi (Diptera, Dolichopodidae). *Japanese Journal of Entomology*, 62: 651-660.

Wood, D. M. & A. Borkent, 1989. Phylogeny and classification of the Nematocera. In McAlpine, J. E. et al. (eds.), *Manual of Nearctic Diptera*, 3: 1333-1370. Research Branch, Agriculture Canada, Monograph (32).